

年間授業計画

科 目 名	English Communication I	単位数	3 単位	学年・学科	1 学年全学科	展開	必修	・ 選択
教科書名	Power On English Communication I (TOKYO SHOSEKI)			副教	総合英語 Evergreen (いいずな書店) 英単語ターゲット1200 (旺文社) Hyper Listening Introductory 4th Edition (桐原書店)			
科目の目標	外国語のコミュニケーションにおける見方や考え方を学ぶと同時に、英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーション能力や資質の育成を目指す。							
学習内容と進め方	教科書や副教材、ハンドアウトを利用し、5 領域を統合的に伸ばすような様々な学習活動を取り入れる。							
学習の留意点	ペアワークやグループワークを多く取り入れ、アウトプット練習の機会を与える。							
月	単元	予定時数	具体的な学習内容	評価の観点			評価の基準	評価方法等
				1	2	3		
4	Lesson 1 Japan's New Tourism	10	動詞の現在形・過去形・進行形・助動詞	○	○		・日本の観光の状況について理解し、自分の住んでいる地域の魅力を発見できる。 ・光る生き物やその光が医療研究に利用されていることについての英文を理解できる。 ・野口選手についての情報を理解し、自分の好きな選手について伝えることができる。	単語テスト (通年)
5	Lesson 2 Light from Creatures	10	受け身・現在完了・現在完了進行形	○	○			ノート・ハンドアウト提出 (通年)
6	Lesson 3 Routes to the Top	10	動名詞・不定詞	○		○		パフォーマンステスト⑩ 前期中間考査
7 8	Lesson 4 Left to Right, Right?	11	後置修飾の現在分詞過去分詞比較級・最上級	○	○		・日本や海外のマンガの形式やその翻訳についての英文を理解できる。 ・バナナペーパーやバナナペーパープロジェクトについての英文を理解し、自分の考えを発信できる。 ・人間の行動に関する心理学実験の手順や結果について、必要な情報を読み取ることができる。	パフォーマンステスト⑩ 前期期末考査
9	Lesson 5 Banana Paper	11	関係代名詞	○		○		
10	Lesson 6 Patterns in Human Behavior	11	It + be動詞 + 形容詞 + that節 SVOC (形容詞)	○	○			
11	Lesson 7 No Plastic or No Future	11	関係副詞	○		○	・プラスチックゴミによる海洋汚染について必要な情報を読み取り、自分の考えをまとめられる。 ・食糧資源、フィッシュ・アンド・チップスの起源や歴史について必要な情報を読み取ることができる。 ・eスポーツの現状や利点、欠点についての情報を読み取り、自分の考えを発信できる。 ・写真家ヨシダナギさんの経験、過去と現在について必要な情報を読み取ることができる。	パフォーマンステスト⑩ 後期中間考査
12 1	Lesson 8 Oh My God!	11	分詞構文	○	○			
2	Lesson 9 Is E-sports a Real Sport?	10	知覚動詞・使役動詞	○		○		
3	Lesson 10 Being Different Is Beautiful	10	仮定法	○	○			パフォーマンステスト④ 後期期末考査
評価方法	(1) 評価の観点は下記の表の通りとする。 (2) 具体的には定期考査、パフォーマンステスト・小テスト、提出物、授業への参加態度等を総合して判断する。							
評価の観点	観 点	趣 旨						
	1知識/技能	コミュニケーション I で学ぶ内容において、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどが理解できている。また、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。						
	2思考/判断/表現	コミュニケーション I で学ぶ内容において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を身に付けている。						
	3主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーション I で学ぶ内容において、背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。						
評価基準	1 知識・技能	A 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 B 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能を概ね身に付けている。 C 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能の習得が不十分である。						
	2 思考・判断・表現	A 目的や状況に応じて、様々な話題について、適切に表現したり伝え合ったりすることができる。 B 目的や状況に応じて、様々な話題について、適切に表現したり伝え合ったりすることが概ねできる。 C 目的や状況に応じて、様々な話題について、適切に表現したり伝え合ったりする力が不十分である。						
	3 主体的に学習に取り組む態度	A 主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図っている。 B 主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 C 主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする意欲が不十分である。						